東京ジャーミイ金曜日のホタバ
2007 年 11 月 17 日

慈 悲

親愛なるムスリムの皆様。クルアーンは多くの章でアッラーの特性を説いています。例えばアッラーはアリーム（全てを知られるお方）であられ、アズィーズ（誇りあるお方・威力並びなきお方）であられ、ハキーム（英知ある方）であられ、ガフール（赦されるお方）であられます。アッラーはなぜ、こういった特性をクルアーンで示されておられるのでしょうか。それはしもべが主をよりよく知るため、そしてしもべがその特性を獲得するよう努力するためです。

クルアーンはファーティハ章で始まります。この章の最初の節は「慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。」です。これによって明らかにされるアッラーの最初の特性は、慈悲あまねく、慈悲深きお方である、ということです。アッラーはまず、慈悲あまねくお方であられるのです。そしてその慈悲の顕現としてこの世界を、人間を創造され、全ての被造物は人間のため奉仕するようになされたのです。この世界での生においては全ての人々へ、信者、不信心者という区別なしに恵みを与えられ、彼らが人間であるという理由で慈しまれ、不信心なしもべを信者であるしもべと区別されてはいないのです。

歴史を通して、ご自身を知ることのなかった集団に対しても、人間であるという理由によって何度も何度も預言者を遣わされてきました。

兄弟姉妹の皆様。「われは只万有への慈悲として、あなたを遣わしただけである。」（預言者章第１０７節）として遣わされた

預言者ムハンマドも、他でもない、慈悲の預言者として遣わされているのです。だからターイフの人々によって石を投げられても、二つの山を合わせてその集団を滅亡させようかという提案を示したジェブラーイールに対し、預言者ムハンマドは許可を与えなかったのです。またある時、偶像崇拝者に対しのろいをかけるよう要求した教友に、「私は慈悲の預言者であり、のろいをかける者ではない。」と答えたのです。

戦いにおいてすら、罪もない子供達や女性達、老人達に害を及ぼすことを禁じられたのでした。これは何故だと考えますか。戦争の場であり、彼らは敵であるのです。そう、それでも彼らは人間であるのです。慈悲、敬意、慈しみに値する存在なのです。

ムスリムの皆様。私達の多くは、ある人が渇きに苦しむ犬のため、その靴で井戸から水を汲んで飲ませたという理由で天国に入ったというハディースを聞いたことがあるでしょう。犬に対して示した慈しみですら、天国へ入るための要因となるのであれば、犬の何倍も価値を与えられるべき存在である人間に対して示された慈悲や慈しみは、同じ結果をもたらさないでしょうか。

つまり、絶対的な意味で、人間であるということは慈悲や敬意を受けるにふさわしいということを意味するのです。この観点から信者は、アッラーの『慈悲』という特性を身につけるよう努力すべきであり、社会的な関係においてもまず人間であるということを前提にし、相手に慈悲や敬意を示すべきなのです。